

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	べと病	疫病	灰かび病	褐斑病	菌核病	黒星病	苗木枯病	炭疽病	つる割病	うどんこ病	斑点細菌病
サンボルドー水	無機	M1		-	-	◎										◎
ハッパ乳	他	NC		-	-											◎
ジーファイン水	無機・無機	NC・M1		1	-			◎								◎
フルピカFL	AP	9		1	4			◎	◎							◎
サブロール乳	DMI	3		1	5											◎
スコア顆水	DMI	3		1	3						◎					◎
トリフミン水	DMI	3		1	5						◎					◎
トリフミン乳	DMI	3		1	5											◎
アミスター20FL	QoI	11		1	4	◎		◎	◎	◎			◎			◎
ストロビーFL	QoI	11		1	3	◎			◎				◎			◎
ファンタジスタ顆水	QoI	11		1	3			◎	◎							
アフェットFL	アミド	7		1	3			◎	◎	◎						◎
カントスDF	アミド	7		1	3			◎	◎	◎						
バンタック水75	アミド	7		*f	1							®				
ピクシオDF	アミド	17		1	4			◎	◎	◎						
モンカット水	アミド	7		*f	1							®				
ベジターボDF	抗生物質	19		1	2			◎								◎
ポリオキシシナL溶	抗生物質	19		1	2			◎								◎
スマレックス水	ジカルボキシイミド	2		1	6			◎	◎	◎			◎			
ロブラール500アクアFL	ジカルボキシイミド	2		1	4			◎	◎	◎			◎			
ロブラール水	ジカルボキシイミド	2		1	4			◎	◎	◎			◎			
エコピタ液	天然物由来	-		1	-											◎
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		1	5			◎	◎	◎			◎	◎		◎
トップジンMペースト	ベンゾイミダゾール	1		*e	5									◎		
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1		*a 1	3			◎	◎	◎			◎	◎	◎	
ジマンダイセン水	有機硫黄	M3		1	3	◎	◎		◎	◎			◎	◎		◎
ペンコゼブ水	有機硫黄	M3		1	3	◎			◎	◎			◎			
ペンコゼブFL	有機硫黄	M3		1	3	◎			◎				◎			
キノンドーFL	有機銅	M1		1	5	◎							◎			◎
サンヨール乳	有機銅	M1		1	4	◎										◎
ヨネボン乳	有機銅	M1		1	4											◎

キ
ユ
ウ
リ

キュウリ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	べ と 病	疫 病	灰 色 か び 病	褐 斑 病	菌 核 病	黒 星 病	苗 立 枯 病	炭 疽 病	つ る 枯 病	つ る 割 病	う ど ん こ 病	斑 点 細 菌 病
アリエッティ水	有機リン	P7		1	3	◎											
リゾレックス水	有機リン	14		*g	1							®					
エトフィンFL	他	22		1	4	◎											
オーソサイド水80	他	M4		*b 1	5	◎			◎			◎	◎				
ケンジャFL	他	7		1	4			◎	◎	◎				◎			◎
セイビア-FL20	他	12		1	3			◎	◎	◎							
ダコニール1000FL	他	M5		*c 1	8	◎		◎	◎			®	◎				◎
タチガレン液	他	32		*d	3							フ					
バルミノFL	他	M10		1	3												◎
バレード20FL	他	7		1	3			◎	◎	◎				◎			◎
ビシロックFL	他	U17		1	3	◎											
フェスティバル水	他	40		1	3	◎											
ブレビクールN液	他	28		*g *h	3							®					
ベルコートFL	他	M7		1	7			◎	◎	◎	◎	◎					◎
モレスタン水	他	M10		1	3												◎
ライメイFL	他	21		1	4	◎											
ランマンFL	他	21		1	4	◎											
テーク水	DMI・有機硫 黄	3・ M3		1	3	◎		◎	◎				◎				◎
アミスターオブティFL	QoI・他	11・ M5		1	4	◎		◎	◎	◎	◎	◎					◎
ピカットFL	アミド・AP	7・ 9		1	3			◎	◎	◎	◎						◎
パンチョTF顆水	アミド・DMI	U6・ 3		1	2												◎
ジャストフィットFL	アミド・他	43・ 40		1	3	◎											
ジャストミート顆水	アミド・他	17・ 12		1	3			◎		◎							
フォリオゴールドFL	アミド・他	4・ M5		1	3	◎			◎								◎
ベジセイバーFL	アミド・他	7・ M5		1	3	◎		◎	◎		◎	◎					◎
カスミンボルドー水	抗生物質・無機	24・ M1		1	5	◎											◎◎
スミブレンド水	ベンゾイミダゾー ル・ジカルホキシミ ド	10・ 2		1	5			◎	◎	◎							
ゲッター水	ベンゾイミダゾー ル・ベンゾイミダ ゾール	10・ 1		1	5			◎	◎	◎			◎				
ニマイバー水	ベンゾイミダゾー ル・ベンゾイミダ ゾール	10・ 1		1	3			◎	◎	◎			◎				

キ
ュ
ウ
リ

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	べ と 病	疫 病	灰 色 か び 病	褐 斑 病	菌 核 病	黒 星 病	苗 立 枯 病	炭 疽 病	つ る 枯 病	つ る 割 病	う どん こ 病	斑 点 細 菌 病
リドミルゴールドMZ 顆水	有機硫黄・アミ ド	M3・ 4		1	3	◎											
ショウチノスケFL	他・AP	U13 ・9		1	2			◎								◎	
ファンベル顆水	他・QoI	M7・ 11		1	3			◎	◎	◎	◎		◎			◎	
ホライズンDF	他・QoI	27・ 11		1	3	◎											
ダイヤモンド水	他・アミド	M7・ 17		1	3			◎		◎						◎	
ダイアメリットDF	他・抗生物質	M7・ 19		1	2			◎	◎	◎			◎			◎	
ポリベリン水	他・抗生物質	M7・ 19		1	2			◎	◎							◎	
フェスティバルC水	他・無機	40・ M1		1	3	◎											
カーゼートPZ水	他・有機硫黄	27・ M3		1	3	◎											
カンパネラ水 ベネセット水	他・有機硫黄	40・ M3		1	3	◎			◎								
ゾーベックエニベル顆 水	他・有機硫黄	49・ M3		1	2	◎											
カーニバル水	他・他	40・ M5		1	3	◎			◎				◎			◎	
ダイナモ顆水	他・他	21・ 27		1	3	◎											
ドーシャスFL	他・他	21・ M5		1	4	◎			◎		◎		◎			◎	
ブリザード水	他・他	27・ M5		1	3	◎			◎				◎			◎	
プロポーズ顆水	他・他	40・ M5		1	3	◎			◎		◎					◎	
ベトファイター顆水	他・他	27・ 40		1	3	◎											

*a:定植前～定植1ヵ月後 *b:播種後～2～3葉期まで
 *c:播種時又は活着後(但し定植14日後まで) *d:播種直後 *e:発病初期
 *f:播種時～子葉展開時 *g:播種時
 *h:苗床=播種直後、本圃=定植直後及び生育初期(但し収穫21日前まで)
 ◎:ピシウム菌による病害 ®:リゾクトニア菌による病害
 フ:フザリウム菌又はピシウム菌による病害 立:立枯性疫病

キ
ユ
ウ
リ

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	タ ネ グ リ バ エ 類	ウ ハ モ グ リ バ エ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	ネ キ リ ム シ 類	ウ リ ハ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	ケ ダ ニ 類	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ	
																			1
スピノエース顆水	スピノシ	5		1	2				◎	◎	◎								
除虫菊乳3	ピレスロイト*	3A		1	5		◎	◎											
コロマイト乳	マコライト*	6		1	2		◎			◎									◎
スプレーオイル	天然物由来			-	-														◎
トモノールS	天然物由来			-	-														◎
ハツパ乳	天然物由来	-		-	-														◎
ハーベストオイル	天然物由来			-	-														◎
ラビサンスプレー	天然物由来			-	-														◎
アブロード水	I GR	16		1	3			お											
カスケード乳	I GR	15		1	4				ナ		ト	◎							
デミリン水	I GR	15		1	2				ナ										
マッチ乳	I GR	15		1	3		◎				◎								
マトリックFL	I GR	18		1	3						◎								
バイデートL粒	カーハート	1A	劇	*h *c *d	1		◎		ナ										ネ
バッサ乳	カーハート	1A	劇	1	3				ナ										
ネマキック粒	殺線虫	1B		*d	1														◎
ネマトリンエース粒	殺線虫	1B		*c	1														◎
ラグビーMC粒	殺線虫	1B		*d	1														◎
カネマイトFL	殺ダニ	20B		1	1														◎
サンマイトFL	殺ダニ	21A	劇	1	2		◎	◎											◎
ダニサラバFL	殺ダニ	25A		1	2														◎
ダニトロンFL	殺ダニ	21A		1	1														◎
ニッソラン水	殺ダニ	10A		1	2														◎
バロックFL	殺ダニ	10B		1	1														◎
ピラニカEW	殺ダニ	21A	劇	1	1		◎												◎
マイトコーネFL	殺ダニ	20D		1	1														◎
モベントFL	殺ダニ	23		*n 1	1 3		◎	◎	◎										灌
フェニックス顆水	ジアミト*	28		1	3							◎	◎						
ブリロッソ粒	ジアミト*	28		*s *Q	1		◎	◎	◎		◎								
プレバソンFL5	ジアミト*	28		*n 1	1 3						灌		◎	◎					
ベネビアOD	ジアミト*	28		1	3		◎	◎	◎		◎	◎							
ベリマークSC	ジアミト*	28		*n	1		灌	灌	灌		灌								
ヨーバルFL	ジアミト*	28		1 *n	3 1		◎	◎	◎		◎	◎	◎						

キ
ュ
ウ
リ

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	タ ネ エ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ウ リ ノ メ イ ガ ウ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	ネ キ リ ム シ 類	ウ リ ハ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	ケ ダ ニ ラ 類	ハ ダ セ ン チ ユ ウ 類	
																			性
ディアナSC	スピノシ	5		1	2			◎◎			◎◎								
エコピタ液	天然物由来	-		1	-		◎◎												◎
アクタラ顆溶	ネニコチノイ [®]	4A		1	3		◎◎	カ											
アクタラ粒5	ネニコチノイ [®]	4A		*a	1		◎◎	◎			ト								
アドマイヤー1粒	ネニコチノイ [®]	4A		*a *e	1		◎◎	◎											
アドマイヤー顆水	ネニコチノイ [®]	4A	劇	1	3	施	◎◎◎												
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	ネニコチノイ [®]	4A		1	2		◎◎◎							◎					
アルバリン粒 スタークル粒	ネニコチノイ [®]	4A		*a *h *i	1		◎◎◎	◎		◎									
ダントツ溶	ネニコチノイ [®]	4A		1	3		◎◎	ナ											
ダントツ粒	ネニコチノイ [®]	4A		*a *e *o	1 3		◎◎◎	ナ ナ											
バリアード顆水	ネニコチノイ [®]	4A	劇	1	3		◎					◎							
ベストガード溶	ネニコチノイ [®]	4A		1	3		◎◎	ナ											
ベストガード粒	ネニコチノイ [®]	4A		*h *a *s *r	1		◎◎◎	◎											
モスピラン顆溶	ネニコチノイ [®]	4A	劇	1	3		◎◎◎	◎			◎			◎					
モスピラン粒	ネニコチノイ [®]	4A		*a *p	1 1		◎												
アーデント水	ビ [®] レスロイト [®]	3A		1	4		◎	オカ											◎
アグロスリン乳	ビ [®] レスロイト [®]	3A	劇	1	5		◎	オナ		ト									
アディオン乳	ビ [®] レスロイト [®]	3A		1	3		◎	オ						◎					
サイハロン乳	ビ [®] レスロイト [®]	3A	劇	1	3		◎	オ											
テルスターFL	ビ [®] レスロイト [®]	3A	劇	1	3		◎												
トレボンEW	ビ [®] レスロイト [®]	3A		1	3		◎◎												
トレボンMC	ビ [®] レスロイト [®]	3A		1	3		◎				◎								
マブリック水20	ビ [®] レスロイト [®]	3A	劇	1	2		◎	オ											
ロディー乳	ビ [®] レスロイト [®]	3A	劇	1	5		◎	オ											◎
アニキ乳	マクロライト [®]	6		1	3			◎					◎						
アフファーム乳	マクロライト [®]	6		1	2			◎◎		◎◎◎									
アグリメック乳	マクロライト [®]	6	劇	1	2			◎◎											◎
サンヨール乳	有機銅			1	4		◎◎												◎

キ
ユ
ウ
リ

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア	コ	ア	タ	ウ	ハ	ネ	ウ	コ	ケ	ハ	ネ
							ブ	ナ	ザ	ハ	リ	ス	キ	リ	ガ	ネ	ダ	セ
							ラ	ジ	ミ	ネ	ノ	モ	リ	リ	ガ	ネ	ダ	セ
							ム	ラ	ウ	バ	メ	ノ	ム	ハ	ム	ム	ニ	ン
							シ	ミ	マ	エ	イ	ト	シ	ム	シ	ラ	チ	ユ
							類	類	類	類	ガ	ウ	類	シ	類	類	ウ	
オルトラン粒	有機リン	1B	*a	1			◎	オ	◎									
サイアノックス乳	有機リン	1B	*f	2			◎	◎										
ジェイエース粒	有機リン	1B	*a	1			◎	オ	◎									
スミチオン乳	有機リン	1B	1	5			◎	◎										
ダイアジノン乳40	有機リン	1B	劇	*a	1													◎
ダイアジノン粒5	有機リン	1B	*b	2					◎				◎		幼	◎		
馬拉ソン乳	有機リン	1B	1	3			◎							◎				◎
ウララDF	他	29	1	3			◎	◎										
グレースシア乳	他	30	1	2			◎	◎	◎	◎	◎							◎
コテツFL	他	13	劇	1	3				ミ		◎			◎				◎
コルト顆水	他	9B	1	3			◎	◎										
チェス顆水	他	9B	1	3			◎	◎										
トランスフォームFL	他	4C	1	2			◎	◎										
ハチハチ乳	他	21A	劇	1	2		◎	◎	◎		◎							
ブレオFL	他	UN	1	2					◎	◎								
パルミノFL	他	UN	1	3				◎										
モレストン水	他	UN	1	3				◎										
アブロードエースFL	殺ダニ・IGR	21A・16	1	3				◎										
ダブルシューターSE	天然由来	5・-	1	2				◎	◎	◎	◎							◎
アベイル粒	ネコチノイド・ジアミド	4A・28	*n	1			◎	◎	◎					◎				
アフームエクセラ顆水	マクロライド・IGR	6・15	1	2					ナ		◎							
マラバッサ乳	有機リン・カーバメート	1B・1A	劇	1	3		◎		ミ									
ポリベリン水	他・抗生物質			1	2				◎									◎

*a: 定植時 *b: 播種時又は定植時 *c: 播種前又は定植前 *d: 定植前
 *e: 育苗期後半 *f: 収穫開始3日前まで *h: 育苗期
 *i: 生育期(但し収穫開始14日前まで)
 *n: 育苗期後半～定植当日 *o: 定植後(但し収穫前日まで)
 *p: 定植後(但し収穫30日前まで) *q: 育苗期後半～定植時 *r: 播種時
 *s: 鉢上げ時
 お: オンシツコナジラミ幼虫 オ: オンシツコナジラミ
 カ: ミカンキイロアザミウマ ト: トマトハモグリバエ ナ: ミナミキイロアザミウマ
 ネ: ネコブセンチュウ及びネグサレセンチュウ
 ミ: ミカンキイロアザミウマ及びミナミキイロアザミウマ
 幼: 幼虫
 灌: 灌注処理での登録
 施: 施設栽培

キ
ユ
ウ
リ

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	早熟(露地)											
	べと病											
	つる枯病 うどんこ病											
虫 害	アブラムシ類											

作 型 — ; 栽培期 — ; 収穫期
病害虫発生長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	苗床期 ～生育期	<ol style="list-style-type: none"> 排水を良好にし、マルチ栽培を行う。 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 1500～2000倍 カスミンボルドー(水) 1000倍 カーゼートPZ水和剤● 1000～1500倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 ドーシャスフロアブル● 1000倍 プロポーズ顆粒水和剤 1000～1500倍 ホライズンドライフロアブル● 2500倍 リドミルゴールドMZ(顆水)● 1000倍 施設栽培では発病前からくん煙剤を使用する(くん煙剤の項参照)。 	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
疫病	播種前	<ol style="list-style-type: none"> 床土消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 冠水しやすい低湿地での栽培をさける。 	
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発病を認めたら次の薬剤を散布する。 ジマンダイセン水和剤 600倍 	
灰色かび病	定植時	<ol style="list-style-type: none"> 施設では換気をはかり多湿にならないようにする。 病果・病葉は早めに除去し、焼却する。 施設栽培では発病前からくん煙剤を使用する◇。 	◇くん煙剤の項参照

キュウリ (野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
(灰色かび病)	(定植時)	4. 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 カンタスドライフロアブル 1000～1500倍 ゲッター水和剤● 1500倍 ジャストミート顆粒水和剤 2000～3000倍 スミブレンド水和剤● 1500～2000倍 セイビアーフロアブル20 1000～1500倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍 ベルクートフロアブル 2000倍	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
菌核病	生育期	1. 病果は菌核を形成する前に除去する。 2. 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 1500倍 カンタスドライフロアブル 1000～1500倍 スミブレンド水和剤 1500倍 セイビアーフロアブル20 1000～1500倍 ロブラール水和剤 1000倍	ハウス栽培で、晩秋から春先の低温時に発生が多い。
褐斑病	生育期	1. 次の薬剤のいずれかを散布する。 カンタスドライフロアブル● 1500倍 ジマンダイセン水和剤 600倍 セイビアーフロアブル20 1000倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍 2. 罹病残渣は適切に処分する。	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。 農業用資材に付着した分生子は次作の伝染源となるので、資材の消毒、洗浄等を十分に行う。
炭疽病	生育期	1. 次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 600倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍 トップジンM水和剤● 1500～2000倍 ペンコゼブフロアブル 500～1000倍 2. 施設栽培では発病前からくん煙剤を使用する◇。	病原菌は雨滴で伝搬する。露地栽培で発生が多い。 ●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。 ◇くん煙剤の項参照

キ
ュ
ウ
リ

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前	・床土は消毒をする(土壤消毒の項参照)。	本病はリゾクトニア菌、ピシウム菌による。 #1リゾクトニア菌にのみ有効 #2ピシウム菌にのみ有効 #3ピシウム菌とフザリウム菌に有効
	苗床期	・発病を認めたら被害株は抜き取り跡地とその周囲に次の薬剤のいずれかを灌注する。 オーソサイド水和剤80 800倍 2ℓ/m ² ダコニール1000(FL)#1 1000倍 3ℓ/m ² バシタック水和剤75#1 750~1500倍 3ℓ/m ² プレビクールN液剤#2 400倍 3ℓ/m ² タチガレン液剤#3 500~1000倍 3ℓ/m ²	
つる枯病	生育期	1. 初発時から次の薬剤のいずれかを散布し予防する。 ジマンダイセン水和剤 600倍 スミレックス水和剤● 1000倍 トップジンM水和剤● 1500~2000倍 2. 茎に発生を見たら、病斑部にトップジンMペーストを塗布する。ただし、幼苗期には薬害を生じやすいので注意。	他のウリ科植物にも発生する。多湿条件が続くと多発しやすい。また、発病の適温が比較的広い。 ●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
つる割病	播種前	1. 床土を消毒する(土壤消毒の項参照)。 2. 発病畑は輪作を計画的に行うか、土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。	病原菌は長期間土中に残る。主としてキュウリを侵すが、メロンも侵される。新土佐、黒だね、スーパー、雲竜などのカボチャを台木とする。接木栽培は病害の回避に有効である。
	苗床期~定植後	1. 接木栽培を行う。発病株は早期に抜き取り処分する。 2. 初発時にはベンレート水和剤1000倍を灌注する(150~300ml/株、定植1カ月後まで)	
うどんこ病		・施設栽培では発病前からくん煙剤を使用する(くん煙剤の項参照)。	

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
(うどんこ病)	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 ダコニール1000(FL) 1000倍 パンチョT F 顆粒水和剤● 2000倍 フルピカフロアブル 2000～3000倍 バルコートフロアブル 2000倍 ポリオキシシナール水溶剤 5000倍 モレスタン水和剤 2000～4000倍 	<p>一般にハウス内が高温のときには薬害がやすい。</p> <p>下葉の初期病斑を見落とさないようにし、予防的に防除する。薬剤は葉裏にも良くかかるように散布する。</p> <p>●DMI 剤は連用しない。</p>
斑点細菌病	生育期	<ol style="list-style-type: none"> 施設では過湿に注意する。 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> カスミンボルドー(水)△ 1000倍 サンボルドー(水)△ 500倍 Zボルドー(水)△* 500倍 	<p>灌水時に葉へ水が飛散しないようにする。</p> <p>露地栽培でも冷涼で降雨の続くとき多発しやすい。</p> <p>△銅剤の連続散布は薬害を生じやすい(葉の硬化、黄変、生育抑制)。幼苗期には低濃度が有機銅剤を散布する。</p> <p>*野菜類での登録</p>
アブラムシ類	定植時	<ol style="list-style-type: none"> 施設栽培では近紫外線除去フィルムを展張し、開口部には目合い0.8mm以下の防虫ネットを張る。 次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 <ul style="list-style-type: none"> オルトラン粒剤 1～2g/株 アドマイヤー1粒剤 1～2g/株 ベストガード粒剤 1～2g/株 	<p>高温乾燥で発生が多い。</p> <p>葉裏や成長点によくかける。</p>
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000～4000倍 コルト顆粒水和剤 4000倍 サンマイトフロアブル 1000～1500倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000～4000倍 	
ミカンキイロアザミウマ	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アルバリン顆粒水溶剤# 2000倍 コテツフロアブル 2000倍 スタークル顆粒水溶剤# 2000倍 スピノエース顆粒水和剤# 5000倍 	#アザミウマ類での登録

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ミナミキ イロアザ ミウマ	定植時	・次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 オルトラン粒剤# 1～2 g/株 アドマイヤー1粒剤# 1～2 g/株 ベストガード粒剤# 1～2 g/株	#アザミウマ類での登録
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤# 2000倍 カスケード乳剤 2000～4000倍 モスピラン顆粒水溶剤# 2000～4000倍	
コナジラ ミ類	定植時	・次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 アクタラ粒剤5 1 g/株 ベストガード粒剤 1～2 g/株	施設内では年間を通じて発生を繰り返し、吸汁害よりもスス病の被害がキュウリでは大きく、キュウリ黄化病も媒介する。 発生がひどくなると防除が極めて困難になるため、黄色粘着トラップ(誘因リボン)等で成虫の数を監視し、早期防除を心がける。 #1天敵に対する影響が少ない。 #2殺成虫及び殺卵効果があり天敵に対する影響が少ないが、高温時の散布で薬害が出やすい。
	生育期	1. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アプロードエースフロアブル#1 1000～2000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2000～3000倍 コルト顆粒水和剤 4000倍 コロマイト乳剤 1500倍 サンマイトフロアブル 1000～1500倍 スタークル顆粒水溶剤 2000～3000倍 ベストガード水溶剤 1000～2000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000倍 モレスタン水和剤#2 2000倍 2. 施設栽培ではくん煙剤も使用する◇。	
タネバエ	播種時または定植時	・次の薬剤を土壌混和する。 ダイアジノン粒剤5 4～6kg/10 a	有機質肥料や未熟堆肥を施すと発生が多い。
トマトハ モグリバ エ	生育期	1. 施設栽培では近紫外線除去フィルムを展張し、開口部には目合い0.8mm以下の防虫ネットを張る。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤# 2000倍 カスケード乳剤 2000倍 プレバツンフロアブル5# 1000～2000倍	幼虫が葉内を食害しエカキ状の被害となる。 #ハモグリバエ類での登録

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ウリノメイガ(ワタヘリクロノメイガ)	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> カスケード乳剤 2000倍 デルフィン顆粒水和剤* 1000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000~4000倍 モスピラン顆粒水溶液 2000倍 	*野菜類での登録
ウリハムシ	成虫発生時	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> コテツフロアブル 2000倍 マラソン乳剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶液 4000倍 	
ハダニ類	生育期	<ol style="list-style-type: none"> 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> カネマイトフロアブル 1000~1500倍 サンマイトフロアブル 1000~1500倍 ダニトロンフロアブル 2000倍 施設栽培ではくん煙剤も使用する◇。 	<p>高温乾燥が続くと発生が多い。葉裏に薬をよくかける。</p> <p>◇「くん煙剤等の使用方法」参照</p>
ネコブセンチュウ	播種前	<ul style="list-style-type: none"> 床土は土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 	
	定植前	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを定植前に散布して土壤混和する。 <ul style="list-style-type: none"> ネマキック粒剤 15~20kg/10 a ネマトリンエース粒剤 15~20kg/10 a ラグビーMC粒剤 20~30kg/10 a 	
その他の害虫		キボシマルトビムシ	